

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101504		
法人名	有限会社たまきメディカルサポート		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	徳島県徳島市国府町和田字居内4番地2		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他人に束縛されない、人として当たり前の権利を支援したり見守ったりして、在宅の延長のような安心できる生活を支援できたらと考えている。入居者各自の多様な意向やスタイルを尊重しつつ、本人を取り巻く地域・家族・事業所職員・医療等が連携し協力し合って、最期まで生き生きと生活できるように援助していきたい。その上で職員はどこまでできるかできないかを見極めたり、模索し続ける必要がある。これからも大きな一つの家と見え、困難な事態に遭遇しても1階2階で助け合って乗り越えていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った、住宅地に位置している。“地域の方や家族様との関わりを大切に、心のふれあいのある、愛されるホームづくりに努めます。”という理念を掲げ、利用者と家族のように安心して暮らせる事業所づくりに取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、安全面に配慮しつつ、職員が地域の神社の清掃活動に参加するなどして、交流を深め、情報収集や協力体制の構築に繋げている。日ごろから利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、個別に買い物やドライブなどの外出支援にも取り組んでいる。同一法人の運営する協力医療機関が近隣に位置し、定期的な往診や訪問看護による健康管理を受けたり、急変時及び夜間の連携体制を整備したりして、利用者や家族等の安心に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方とのふれあいを大事にすること、地域の中で信頼され、愛されるホーム作りを目指している。職員は、理念を名札の裏面に記入し、日頃から意識して取り組んでいる。	事業所では、職員の名札の裏に理念を記載したり、事業所内に掲示したりして、共有化を図っている。職員会議や研修会等で、地域密着型サービス事業の意義や役割について話しあい、実践に繋げている。職員の入れ替わり等、変化があった際には、理念の見直しを行っている。新人職員には、研修等で理念について伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス対策で交流することは難しいが、散歩や職員の出退勤時に積極的に挨拶し関係を絶やさないよう努めている。	事業所では、近隣を散歩した際に地域住民とあいさつを交わしたり、事業所の現状を伝えたりして、交流している。また、職員が地域の神社の清掃に参加するなど、つながりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナウイルス対策のため、外部との関りは自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地区代表として参加している方には会議録とは別に手紙を渡し、様子を伺ったりしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症(コロナ等)の流行下においては、事業所の報告をまとめた書類を各委員へ持参したり、郵送したりして、意見等を聞いている。聞きとった意見や情報は、職員間で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルスの影響のため、市の担当窓口に出向くことができていない。困りごとや相談したいことがあれば電話でやり取りしている。	管理者は、感染症の流行下において、郵送や電話を活用し、市との連携を図っている。市担当者の変更となった際には、挨拶に行くなど、協力関係の構築に努めている。また、地域包括支援センターとも入居について相談するなど、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が各ユニットごとに拘束実施状況を把握して、適切かどうかの振り返りや意見交換を行い、その内容を会議録に残している。	事業所では、定期的に身体拘束適正化委員会や研修を開催している。拘束が必要となる場合にも、職員間で話しあい、時間を減らしたり、なくしたりできるよう工夫しつつ、自由な暮らしへ向けて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にも通じる身体拘束委員会を開催し勉強会、検討会、取り組み等の話し合いをしていおり、知識や情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で、権利擁護や成年後見制度についての勉強会や話し合い等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容や疑問点に対し、十分説明を行い理解、同意を得ている。特に重度化した場合の対応の指針や治療が必要となった場合、入院中の部屋確保など、本人、家族が納得して頂けるよう話し合い支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のケアや入居後との会話の中で、入居者の思いをくみ取ることができるよう努めている。家族の来訪時や電話連絡の際に、意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、信頼関係を築いている。出された意見や要望は、職員間で話し合い、運営面に反映している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望を聞いている。家族等からは、来訪時に意見を聞いている。定期及び随時に電話連絡を行ったり、たよりを送ったりして、利用者の状況を伝え、意見を引き出すことができるよう工夫している。出された意見は、職員間で話し合い、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日の申し送りやミーティングの際に、職員の意見や提案の把握に努めている。出された意見は、代表者と相談しながら運営面に反映し、職員の意欲の向上に繋げている。	管理者やユニットリーダーは、日ごろから職員の意見や提案を聞きとり、働きやすい環境を整えている。必要に応じて、個別に話を聞く機会も設けている。毎月、行事担当を決め、季節行事に職員の意見・提案を活かすなど、職員のやりがいに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接又は管理者を通じて、汲み上げた意見や思いを各人の体調管理等に配慮して働きやすい環境作りに努めている。定年後の就業についても、続けて働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度よりオンライン研修を各職員で受講できるシステムを導入し、月1回の受講、レポートを提出し実践教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルスの影響で、同業者との交流はできていないグループ内の関連事業所と情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时など、実際に生活を見て頂くことで、新しい環境に対する不安軽減に努めている。また家族からも日頃の体調や、意向など情報収集を行い入居後の安心感につなげるケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当事業所で難しい事はグループ内で相談・連携し、困り事、心配事に対処できる可能性を示し、不安材料を取り除く努力をしている。入居には至らないケースも、相談に来られた家族の思いを真摯に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けて、本人や家族が困っていること、必要な支援は何かなど判断し、必要なサービスが見極められるよう努力し、連携を通じて広い範囲でその人にあったサービスを検討出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下ごしらえを手伝ってもらったり、一緒にすることで共に支えあう良好な関係を築いている。個々の出来る事、出来ない事で協力し、お互いが支えあう関係であるという意識をもちながら共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時一緒に付き添い、医師の話を聞いてもらったり、他科受診をお願いし本人を支える関係づくりをしている。日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に務め、家族と同じ様な思いで支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院など家族の協力を得ながら支援している。個々の生活習慣を尊重しており、情報交換しながら助めている。	事業所では、感染症の流行下において、電話やメール等を活用し、馴染みの関係継続に努めている。代表者と相談しつつ、家族の協力を得て、墓参りに行ったり、一時帰宅したりすることを支援している。馴染みの場所へ少人数でドライブに出かけるなど、工夫しつつ、支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の生い立ちや個性を把握し、気の合う者同士の語らいを支援したり、引きこもりがちの人には気を引き立てる様な声掛けをして、他の入居者と上手に関われない人が孤立しないよう目配りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々に様子を伺ったり、見舞ったり、電話や挨拶でふれあう関係が続いている。また系列病院や施設に入所されている場合はお見舞いしたり、家族とも交流を途切れさせないよう気をつけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃の入居者との関りのなかで、入居者一人ひとりの表情やしぐさから思いを汲み取るように努めている。意思の表出が困難な入居者には、家族から情報や意向を聞き取り、本人本位に検討している。	事業所では、担当職員が主となって、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、表情や仕草等から推測したり、家族や親戚、友人等、関係者から意見を聞いたりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時など、本人や家族を通して、状態や生活スタイルの把握に努めている。入居されてからも生活歴や環境等の情報収集を行っている。新たな情報は職員全員に申し送っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「介護観察記録」で一日の心身状態の把握に努め、「ケアチェック表」で個人に応じたプランの評価をしている。一人ひとりがそのひとらしく自由に生活してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットごとに担当職員が状態把握に努め、気づき等をカンファレンスにて情報共有し、チームで取り組むとともにケアプランに反映している。	事業所では、利用者や家族等の意向を把握し、精神的に安定した生活をおくるための介護計画を作成している。医療関係者とも情報を共有し、話しあいを行っている。定期的なモニタリングを行い、計画を見直している。また、利用者の心身状況の変化に応じた見直しもを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況観察に努め水分量、食事量や、排便の有無などを記録し、職員全体で状態を把握する事で、体調変化に早く気付くと共に、適切な対応を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居に不安な人は、事業所見学をして頂いた時に面談している。入居困難な場合は適切な施設等への紹介等をしている。医療連携体制により訪問看護や、医師への相談等、24時間体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で入居者を交えての地域行事、社会参加は行っていないが、職員が神社の清掃活動に参加し情報交換、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向を把握し、希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診結果等の情報共有を行い、適切な医療の受診を支援している。	事業所では、利用者と家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は、家族の協力を得つつ、臨機応変に支援している。月2回の協力医の往診や毎日、訪問看護による健康チェックがあり、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の体調の変化を見逃さないよう健康管理を行い、協力医療機関の看護職に電話相談、訪問相談に応じてもらっている。介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは気軽に相談できる関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関にて入院を受け入れて頂いていると共に、医療連携室を通して適切な入院医療機関等の紹介をうけている。できるだけ職員が見舞うようにしている。又家族とも回復状況等情報交換しながら退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	持病の悪化等で急変が予測される場合には本人家族の意向を尊重し、主治医の意見も伺いながらグループ内での「終末期医療約束ファイル」を作成しチームでの支援に取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針等について説明し、意向を確認している。本人の心身状況の変化に応じて、話しあいを行っている。主治医の意見も確認しつつ、“終末期医療約束ファイル”を作成し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での勉強会で緊急時の対応について話し合っている。夜間帯も職員が慌てることなく対応できるよう、緊急時のマニュアルと連絡網を備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練時には防火管理者が消防局・消防署を訪問し計画書を提出した際に水害や災害対策についても助言指導頂いている。	年2回、日中と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。消防署や地域の消防団との連携体制を築いている。事業所周辺に川があるため、古くからの近隣住民に対策について助言をもらうなど、地域の協力関係も築き、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居後一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。毎日のミーティング時に、全職員で支援方法の共有を図っている。特に、入浴や排泄時にはさりげない声掛けや支援を心がけている。	職員は、引き継ぎの際、内容が他の利用者に聞こえないように注意するなど、プライバシーに配慮している。排泄や入浴支援では、排泄物や衣類についても、他の利用者から見えないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化したり感染予防のため、外出が困難になっても自分が欲しいものを購入できるようメモしてもらったり、受診時には自動販売機で好きな飲み物を買ったりと自己決定できる機会を増やしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや生活リズムを尊重して支援すると共に、その日のコンディション、様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルスの感染が拡大している時は美容師資格を持つ施設職員が髪のカットやセットを行い行事として実施している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所では、職員と入居者の希望を取り入れた献立を作成している。職員は、入居者と調理の準備や下ごしらえ、後片づけ等それぞれの力量に合った役割を担ってもらっている。	事業所では、栄養面に配慮し、献立を作成している。調理の音やかおりで、食欲が増し、楽しみとなるよう取り組んでいる。行事食や干し柿づくり、誕生日会では、ケーキを手づくりするなど、利用者にも参加してもらいつつ、調理している。近隣からの旬の野菜の差し入れも活用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に栄養バランスを考えた献立を作って貰っている。水分量、食事量のチェックを行い、本人の希望を考慮した食事提供、水分摂取量の少ない方には別の飲み物を出したりと個別支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがき、うがいの声掛けをし、自力で出来る人、見守りの必要な人、介助の必要な人への支援をしている。かかりつけ歯科が近所にあり、月に2回訪問してもらい、口腔内の清掃や義歯の調整等行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。排泄パターンに合わせてさりげない声かけやトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	事業所では、職員間で排泄支援について話しあいつつ、支援に取り組んでいる。日中は、可能な限り、トイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者の心身状況に応じて、ポータブル等を使用しつつ、声かけや誘導で自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューで工夫している。水分量の少ない入居者にはお茶だけでなく好みの飲み物で補っている。体操、散歩、廊下歩行等身体を動かす誘いかけをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中だけでなく希望を聞いて、夜間入浴もしている。シャワー浴や足浴などは状況に応じ対応している。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。利用者の心身状況に応じて、入浴の回数や時間帯を変更し、臨機応変に対応している。利用者の状態により、支援する職員を増やし、浴槽につかることができるよう努めている。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯を行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、日中は活動できるように支援している。温かい飲み物を出したり、話し掛けるなど眠りにつく支援をしている。冷暖房の調節をして安眠して頂けるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の使用している薬剤の治療目的、用法、用量、注意事項などをファイルに綴じている。定期的に受診し、病状の変化等を伝えている。職員は個々の治療目的を把握しており、服薬支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じた役割分担を行って貰っている。無理強いはせず、楽しみ事や出番を見出せるようにしている。また、自室に飾るカレンダーの塗り絵もして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出掛け、歩行困難な方も車椅子を利用して外出の楽しみを持ってもらっている。しかし、新型コロナウイルスの影響で家族との面会も禁止されており、家族との外出はできていない状況である。	事業所では、気候の良い日に周辺の散歩に出かけている。日ごろから、テラスでの日光浴や、布団干し、洗濯物の取りこみ、花の水やり等、外気にふれる機会を設けている。安全面に配慮し、少人数でドライブに出かけるなど、可能な限り外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできない入居者は事業所で預り、希望に応じ、好きな物を買って頂いている。預かり金チェック表にレシートを貼り、面会時に家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安な様子が見られる時や、申し出により、入居者自らが電話で話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は、調理の音や匂いを感じることができ、壁面には、行事の際の写真や入居者の習字等を飾り、ぬくもりのある居心地の良い空間作りを行っている。	事業所は、共用空間が家庭に近い環境となるよう取り組んでいる。利用者の編み物や手づくりのカレンダー、書き初めなどの作品を飾りつけ、温かみや季節感を感じることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はリビングで思い思いに過ごせるよう工夫されている。新型コロナウイルスの影響で、ソーシャルディスタンスに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンス、時計、テレビ等馴染みの持ち込み品があり、家族の写真を飾ったり、手作りカレンダーを掛けている方もいる。	居室は、利用者の馴染みの家具や調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの心身状況、家族の希望等を大切に環境を整えている。安全面に配慮して、家具配置や整理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に、自立した生活が送れるよう、滑り止めマットを設置する等、環境整備に努めている。居室間違いのある方には、家族にも了承頂き居室に名前を掲示させてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方とのふれあいを大事にすること、地域の中で信頼され、愛されるホーム作りを目指している。職員は、理念を名札の裏面に記入し、日頃から意識して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス対策で交流することは難しいが、散歩や職員の出退勤時に積極的に挨拶し関係を絶やさないよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナウイルス対策のため、外部との関りは自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地区代表として参加している方には会議録とは別に手紙を渡し、様子を伺ったりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルスの影響のため、市の担当窓口に出向くことができていない。困りごとや相談したいことがあれば電話でやり取りしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が各ユニットごとに拘束実施状況を把握して、適切かどうかの振り返りや意見交換を行い、その内容を会議録に残している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にも通じる身体拘束委員会を開催し勉強会、検討会、取り組み等の話し合いをしており、知識や情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で、権利擁護や成年後見制度についての勉強会や話し合い等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容や疑問点に対し、十分説明を行い理解、同意を得ている。特に重度化した場合の対応の指針や治療が必要となった場合、入院中の部屋確保など、本人、家族が納得して頂けるよう話し合い支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のケアや入居後との会話の中で、入居者の思いをくみ取ることができるよう努めている。家族の来訪時や電話連絡の際に、意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、信頼関係を築いている。出された意見や要望は、職員間で話し合い、運営面に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日の申し送りやミーティングの際に、職員の意見や提案の把握に努めている。出された意見は、代表者と相談しながら運営面に反映し、職員の意欲の向上に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接又は管理者を通じて、汲み上げた意見や思いを各人の体調管理等に配慮して働きやすい環境作りに努めている。定年後の就業についても、続けて働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度よりオンライン研修を各職員で受講できるシステムを導入し、月1回の受講、レポートを提出し実践教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルスの影響で、同業者との交流はできていないグループ内の関連事業所と情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时など、実際に生活を見て頂くことで、新しい環境に対する不安軽減に努めている。また家族からも日頃の体調や、意向など情報収集を行い入居後の安心感につなげるケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当事業所で難しい事はグループ内で相談・連携し、困り事、心配事に対処できる可能性を示し、不安材料を取り除く努力をしている。入居には至らないケースも、相談に来られた家族の思いを真摯に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けて、本人や家族が困っていること、必要な支援は何かなど判断し、必要なサービスが見極められるよう努力し、連携を通じて広い範囲でその人にあったサービスを検討出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下ごしらえを手伝ってもらったり、一緒にすることで共に支えあう良好な関係を築いている。個々の出来る事、出来ない事で協力し、お互いが支えあう関係であるという意識をもちながら共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時一緒に付き添い、医師の話聞いてもらったり、他科受診をお願いし本人を支える関係づくりをしている。日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に務め、家族と同じ様な思いで支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院など家族の協力を得ながら支援している。個々の生活習慣を尊重しており、情報交換しながら勧めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の生い立ちや個性を把握し、気の合う者同士の語らいを支援したり、引きこもりがちの人には気を引き立てる様な声掛けをして、他の入居者と上手に関われない人が孤立しないよう目配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々に様子を伺ったり、見舞ったり、電話や挨拶でふれあう関係が続けている。また系列病院や施設に入所されている場合はお見舞いしたり、家族とも交流を途切れさせないよう気をつけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃の入居者との関りのなかで、入居者一人ひとりの表情やしぐさから思いを汲み取るように努めている。意思の表出が困難な入居者には、家族から情報や意向を聞き取り、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時など、本人や家族を通して、状態や生活スタイルの把握に努めている。入居されてからも生活歴や環境等の情報収集を行っている。新たな情報は職員全員に申し送っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「介護観察記録」で一日の心身状態の把握に努め、「ケアチェック表」で個人に応じたプランの評価をしている。一人ひとりがそのひとらしく自由に生活してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットごとに担当職員が状態把握に努め、気づき等をカンファレンスにて情報共有し、チームで取り組むとともにケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況観察に努め水分量、食事量や、排便の有無などを記録し、職員全体で状態を把握する事で、体調変化に早く気付くと共に、適切な対応を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居に不安な人は、事業所見学をして頂いた時に面談している。入居困難な場合は適切な施設等への紹介等をしている。医療連携体制により訪問看護や、医師への相談等、24時間体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で入居者を交えての地域行事、社会参加は行っていないが、職員が神社の清掃活動に参加し情報交換、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向を把握し、希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診結果等の情報共有を行い、適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の体調の変化を見逃さないよう健康管理を行い、協力医療機関の看護職に電話相談、訪問相談に応じてもらっている。介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは気軽に相談できる関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関にて入院を受け入れて頂いていると共に、医療連携室を通して適切な入院医療機関等の紹介をうけている。できるだけ職員が見舞うようにしている。又家族とも回復状況等情報交換しながら退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	持病の悪化等で急変が予測される場合には本人家族の意向を尊重し、主治医の意見も伺いながらグループ内での「終末期医療約束ファイル」を作成しチームでの支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での勉強会で緊急時の対応について話し合っている。夜間帯も職員が慌てることなく対応できるよう、緊急時のマニュアルと連絡網を備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練時には防火管理者が消防局・消防署を訪問し計画書を提出した際に水害や災害対策についても助言指導頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居後一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。毎日のミーティング時に、全職員で支援方法の共有を図っている。特に、入浴や排泄時にはさりげない声掛けや支援を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化したり感染予防のため、外出が困難になっても自分が欲しいものを購入できるようメモしてもらったり、受診時には自動販売機で好きな飲み物を買ったりと自己決定できる機会を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや生活リズムを尊重して支援すると共に、その日のコンディション、様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルスの感染が拡大している時は美容師資格を持つ施設職員が髪のカットやセットを行い行事として実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所では、職員と入居者の希望を取り入れた献立を作成している。職員は、入居者と調理の準備や下ごしらえ、後片づけ等それぞれの力量に合った役割を担ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に栄養バランスを考えた献立を作って貰っている。水分量、食事量のチェックを行い、本人の希望や調子を考慮した食事提供、水分摂取量の少ない方には別の飲み物を出したりと個別支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがき、うがいの声掛けをし、自力で出来る人、見守りの必要な人、介助の必要な人への支援をしている。かかりつけ歯科が近所にあり、月に2回訪問してもらい、口腔内の清掃や義歯の調整等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。排泄パターンに合わせてさりげない声かけやトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューで工夫している。水分量の少ない入居者にはお茶だけでなく好みの飲み物で補っている。体操、散歩、廊下歩行等身体を動かす誘いかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中だけでなく希望を聞いて、夜間入浴もしている。シャワー浴や足浴などは状況に応じ対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、日中は活動できるように支援している。温かい飲み物を出したり、話し掛けるなど眠りにつく支援をしている。冷暖房の調節をして安眠して頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の使用している薬剤の治療目的、用法、用量、注意事項などをファイルに綴じている。定期的に受診し、病状の変化等を伝えている。職員は個々の治療目的を把握しており、服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じた役割分担を行って貰っている。無理強いせず、楽しみ事や出番を見出せるようにしている。また、自室に飾るカレンダーの塗り絵もして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出掛け、歩行困難な方も車椅子を利用して外出の楽しみを持ってもらっている。しかし、新型コロナウイルスの影響で家族との面会も禁止されており、家族との外出はできていない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできない入居者は事業所で預り、希望に応じ、好きな物を買って頂いている。預かり金チェック表にレシートを貼り、面会時に家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している入居者がおり、空き時間に自由に話したり、電話の取り次ぎ対応等している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は、調理の音や匂いを感じることができる。壁面には、行事の際の写真や入居者の習字等を飾り、ぬくもりのある居心地の良い空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はリビングで思い思いに過ごせるよう工夫されている。新型コロナウイルスの影響で、ソーシャルディスタンスに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンス、時計、テレビ等馴染みの持ち込み品があり、家族の写真を飾ったり、手作りカレンダーを掛けている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に、自立した生活が送れるよう、滑り止めマットを設置する等、環境整備に努めている。居室間違いのある方には、家族にも了承済み居室に名前を掲示させてもらっている。		